

くまがさ

第 12 号
 発行 会
 釧路湖陵同窓会
 発行 日
 昭和60年8月15日
 題 字
 組村真平同窓会会長
 印刷 所
 藤田印刷 KK

近く実行委員会始動 同窓会館建設募金に本腰!!



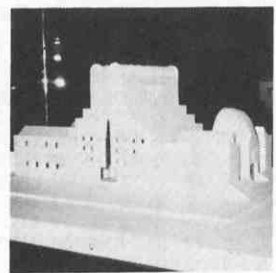
丹葉節郎氏

の丹葉節郎氏(釧中八期、同窓会顧問)は、「いよいよ近く募金を初めるぞ」と最近ふれ廻っている。



同窓会長 組村真平

随想 「応援歌」



毛網氏が設計した同窓会館模型

道教育委員会の本年度老朽校舎構造調査に湖陵も漸やく仲間入りし今夏八月この調査が行われる由で、母校の改築着工も六十二年春になることがほぼ確実となった。それに伴い、同窓会館建設構想もどうやら具体化し初めた。緑ヶ岡の新天地に我が同窓会館の出現する日も左程遠くはない。



毛網毅曠氏

構造は? 内容は? 色彩は? 同窓生の関心が集まるところであるが、設計担当の毛網毅曠氏(湖陵十二期、本名毛網一裕)は既に実施設計に取り組みつゝあり、近く全体構想が明らかになる。各期の寄付帳への記帳は進んでいるであろうか。募金実行委員長

「きょう決勝で湖陵が勝った。然し応援に来ていた生徒が歌ったのは校歌一番だけ。応援歌は遂に聞かれずじまい。俺は実に淋しかった。同窓会長! 何とかせい!」
 高校野球釧根地区大会決勝戦の、その夜、酔った先輩から電話があった。

そう云えば、一昨年の同窓会総会の折、出演してくれた湖陵のブラスバンドは応援歌の演奏ができず、出席した同窓生の不評を買った。昨年は結局出演を辞退して貰ったという経緯もある。

校歌や応援歌などを後輩の現役が歌えない、忘れ去っているなどということ甚だ淋しい限りである。が然し、これは何も今に始まったことではあるまい。そして、こ

とは応援歌だけではなく、また同窓生と現役との年令差だけでもなからう。同窓生内部にも、どうやら同じ現象がある。一般的に年長者は懐古趣味的であり、年少者は同窓会そのものに懐疑的である。そんな意識の溝は矢張り避けられぬものようだ。まして七十年にまたがる人脈を一つに束ねる我が同窓会ともなれば、それは宿命とも云えるかも知れない。

この年令差による考え方の溝を少しでも埋める。これが、これからの同窓会に課せられた役割の一つとも思われる。

それにしても応援歌を歌わない校歌も一番だけしか知らない後輩というのは、やっぱり、ただけ

釧路市議会議長

中 村 隆

釧路市栄町2-6
 電話 24-8811
 (釧中27期)

釧路市長

鰐 淵 俊 之

釧路市緑ヶ岡2-36
 電話 41-3045
 (湖陵7期)

釧中・湖陵の名物先生

ご勇退を惜しむ!!



校に二十七才で赴任、教師としての第一歩を印されました。先生の在職期間中の卒業生は約一五四〇〇名。

教科(国語・漢文・書道)や部活動、(剣道・書道)、日常の指導生活を通してその多くの生徒に接してこられました。特に、「剣道の男澤」と呼ばれた先生は高体連全道第一回大会から連続二十九回の出場記録をつくる指導力を発揮されました。(剣道歴六十年現在教士七段。昭和四十九年には道教育実践表彰(道教育委員会より)をうけるなど、教育者として高く評価されています。

昭和二十八年湖陵入学と同時に、川的全道大会に出場し、優勝候補に上げられながら、優勝チームの砂川北高に敗れ、決勝リーグに進出できず、その口惜しさと余りの猛暑にビールを飲み真つ赤な顔で汽車に乗ったところ先生からゲンコツを一発づつ喰い釧路に帰って皆んな丸坊主になった事も思い出となっております。

戦前の釧中剣道部の黄金時代、そして戦後二十八年連続全道大会出場の湖陵剣道部の指導者としての男澤先生、退任後も益々剣道の道を極めていただきたいと思います。

目な、そして明るく素直でおおらかな生徒諸君や、母校思いの寛大な先輩諸兄がかけになりひなたになりして、ご芳情ご教導たまわった多くの皆さま方に助けられたおかげと、唯感謝に耐えませぬ。本当にありがとうございます。

私にかえって考えて見ますと、やらなければならぬ事が沢山のこつており、何から手をつけてよいやらとまどっている次第です。落着いて順序を立てて、これから

剣聖の教えをうけて

湖陵八期 山本 寿福

昭和二十八年湖陵入学と同時に、川的全道大会に出場し、優勝候補に上げられながら、優勝チームの砂川北高に敗れ、決勝リーグに進出できず、その口惜しさと余りの猛暑にビールを飲み真つ赤な顔で汽車に乗ったところ先生からゲンコツを一発づつ喰い釧路に帰って皆んな丸坊主になった事も思い出となっております。

戦前の釧中剣道部の黄金時代、そして戦後二十八年連続全道大会出場の湖陵剣道部の指導者としての男澤先生、退任後も益々剣道の道を極めていただきたいと思います。

目な、そして明るく素直でおおらかな生徒諸君や、母校思いの寛大な先輩諸兄がかけになりひなたになりして、ご芳情ご教導たまわった多くの皆さま方に助けられたおかげと、唯感謝に耐えませぬ。本当にありがとうございます。

私にかえって考えて見ますと、やらなければならぬ事が沢山のこつており、何から手をつけてよいやらとまどっている次第です。落着いて順序を立てて、これから

男澤 哲男

ごあいさつ

この度、昭和十六年三月学校を卒業、三月三十一日付で赴任、以来四十四年間に在職した北海道釧路湖陵高等学校を、今春三月三十一日をもって退職致しました。

ふり返って見ますと、非常に短

この度の歴史を誇り、これまでに多くの優秀な人材を輩出して参りました釧中・湖陵を支える同窓会が、今後ますます発展し、又機関紙「くまささ」が末永く継続しますことを心から祈念しながらご挨拶と致します。

学園だより

同窓生の皆さま、いかがお過ごしですか。

七月二十二日(日)、昨日の北・北海道大会でわが校野球部が演じた(準決勝・対本別高校戦)夢のような最終回逆転勝利の興奮がまだ尾をひく状況の中で、今この原稿を書いていきます。

七年振り、十六度目の挑戦で、長年の球児たちの夢が、同窓生たちの期待が実現しようとしています。甲子園の青空に、全国各地の同窓生に、北に湖陵ありと響きわ



第67回 全国高校野球選手権大会 北・北海道大会
於 名寄市営球場 S60.7.17

たるであろう私たちの校歌を、是非きかせたいものと願っています。地方にまで押し寄せる甲子園フ

イーバーの波にかくされ、あまり目立たない他のクラブの活躍も紹介しなければなりません。

高体連全道大会決勝で、東海大四に勝ちを譲ったものの、バスケットボールは七年振り三度目の全国大会出場(十三各、八月一日、石川県七尾市)を果します。地区

大会を目前に、レギュラーの福山雅美君(二年)を急性心不全で失

なうというアクシデントをのり越えて手中にした価値ある勝利です。さらに、陸上では、一年生ながら女子三〇〇〇Mで、

平川敦子さんが出場権を獲得(八月一日、金沢市)、遠征を前に最後の練習に余念がありません。

文化系クラブでは、昨年すでに代表が決定している合唱部が、盛岡で開催される第九回全国高校文化祭(八月一日、五六

名)に、VOK放送局が第三二回NHK杯コン

テスト(八月六日・東京六名)に参加します。

前後しましたが、高体連全道大会には、前述のクラブの他に、剣道(全道大会三十一回の中三十

回出場)、サッカー(六年振り六度目)、体操・新体操・弓道・柔道・硬・軟式テニス・羽根球・ハン

ドボール(決勝で函館有斗校に惜敗)等が創根支部代表として出場を果しました。

今春も、例年通り人事異動が実施されましたが、初めての停年制施行に伴って、長

年本校発展のために尽力された多くの方が退職されたことが、今回の特徴としてあげられやす。中

でも、戦中・戦後にわたる四四年間本校一筋、釧中・湖陵の歴史の大半を湖陵健児と共に生きてこ

れた男澤哲夫先生が惜しまれながら退職されたことを特記しておきます。他の皆さん(蝦名義彦教諭、

公務補の本間金作さん、入原理一さん)と共に今までのご苦労に謝し、今後のご健勝を心からお祈りします。

新任には、永島教頭、川原教諭、横山事務官、公務補の奈良さんの外、新採用教員として金生浩一、



第15回 全国高等学校選抜バスケット優勝大会
(北海道予選) 1985.1.10-13 於 札幌市

斉藤美紀教諭の若いお二人を迎え、生徒の良き師、良き兄・姉として、若き溢れる活躍が周囲から期待されています。

以上、大変内容の乏しい学園報告となりましたが、ご了承下さい。同窓生の皆さまの増々のご活躍、ご健康をお祈りしながら報告にかえます。

(文責・湖陵四期・和田信幸)



釧路市議会議員
本間 正直
釧路市浜町3-15
電話 24-2815
(釧中28期)

釧路市議会議員
小 柏 佐 市
釧路市新富士2-3-8
電話 51-2561
(釧中26期)

青春譜・湖陵ヶ丘

《12》



釧中32期 奥田達也

ラブレター

昔の「釧中生の恋」をたずねて今年五月、私は川湯を訪れた。かつて標茶から強行軍した修学旅行生が「山霧たちこめ」といった街へ。なぜに、五十七年も前の「ラブレター事件」を今さらに追ったのか？

霧雨の朝…。目が不自由になり隠退したという女主人は、終戦後に会津からきて二男莊平に嫁したという。その幸子夫人が仏壇から出してくれた写真を見た突端…。「この女だ」と。若かりし頃のオキャンぶりがうかがえ、私はそう直感した。疾うの昔に亡くなられた、その姑の厳しさを、私はラブレター事件の当事者として、重ね合わせて聞いていた。まだ寂れていた川湯の対岱館、丸五五女旅館、丸トすずき屋旅館に分宿した釧中生。その生徒の一人が、旅館の娘さんへラブレターを出した。その差出しの住所を

釧路中学校としてあったから、返事の届いたのも勿論、釧路中学校の某としてきた。今の高校生では何ともないことだろうが、その当時のこと、当然に校長のもとに届けられた。平沢虎一第三代目校長

美しき鎮魂歌よ

「忌わしき」と叱責される

く卒業した。穏便にとり扱われた例である。

「第二ラブレター事件」といわれる十九回生のときは、釧路高女二年の生徒におくった手紙を、その女学生が落とし、不運なことに新聞社の人に拾われ、新聞に載ってしまったからたまらない。学校教育上の由々しい事件として、五年生の某は、他の中学へ転校させられてしまった。

七月、この稿を書くにあたって「はて？第一回ラブレター事件の娘さんは？」と気付き、念のため

は謹厳実直をもってなる人である。朝礼の壇上から全生徒の前に、

「先般の修学旅行において宿泊した旅館の娘へ忌わしき手紙をおくった生徒がいる。いままたその手よりいまわしき手紙が本校気付けで送られてきた。まことにもって、いまわしききわみである」と。

当事者二人とも堂々と実名を書いている。校長は発表しなかったが、在校生にはわかっていった。しかし、その十二回生は、こともな

電話を幸子夫人へかけたところ、「主人の三回忌の法要が今日、これからなんですよ」と。

富士屋旅館の豊井伝之介が自宅

へ報告した文から「釧中生、熊に襲われる」六人行方不明のニュースとなつて全国へ流れたが、縁は両館とも「山形屋ホテル」と代り、

釧路へ通つた莊平が追突を受けて十年もの病床に伏し、看病の甲斐なく歿して丁度二年という。偶然の重なりを声をつまらせて質問。

「屹度、いま札幌にいる叔母さんでしよう。この八月に息子のいる千葉県へ移りますよ」との答え。

当事者が「生きていた」という驚きは、私をさらに複雑な感慨におちいらせた。

私が釧中五年生の夏、バスで摩周湖をおとすれた。十三回生らがおりの湖面で泳ぎ、そのため衣服を濡らした私に一女性がベルトを貸してくれた。ワンピースと共柄のそれを毎日見ているうちにその女学生を慕い交際した。翌年の誕生日に娘の旅館へハガキで招待状を送った。だが、友人も呼んだ自宅へきたのは、娘の叔父だという刑事であった。

下校時に、警察署へ呼び出されもした。戦後の交際が自由になつたとはいえ、男女間のつきあいはまだ厳しかったのである。「男女共学」の命令に学校当局も卒業生も猛反対し「もし不祥事も起つたら私は腹を切らねばならないと思つた」と丹葉節郎にいじめた共学が実施されるのは、その翌々年で、今はすでに亡いその恋人と同じ今当番期の湖陵三回生からである。

私が、あえて古い事件を追つたのは、いかに遠い過去でも、その人には美しく、悔いのない鎮魂歌を求めている旅であるからだつた。

釧路市議会議員

清水 闊

釧路市駒場4-23
電話 23-8764
(釧中32期)

釧路市議会議員

西山百治

釧路市城山1-11-38
電話 41-0462
(釧中29期)



不滅の至宝 「誠・愛・勇」

釧路二十期 林 田 久 男

昭和八年四月、青雲の志を抱き北海道庁立釧路中学校に入学、と云えば誠に聞えがよいが、その実制服と二本の白線と熊笹の帽章に憧れ胸をときめかしたものです。

今時何処にもお目にかかれぬ木造建の、しかも当時既にベンキがあちこち充げた校舎が、とても崇高に感じられた。学年ABCと各五〇名、一年中半にして五年生が蹴起して同盟休校に、何が何だか理解出来ないまま、二日程臨時休校をした。

当時の先生は校長を始め各々気骨があり、信念と人間愛が滲み出て居たことは我々心に感じ取って居たものである。勉学は年々難解となつて行くのは当然ながらも成績の良し悪しにかかわらず、良く勉強に励んだものである。やがて上海、日支事変が始まり、除々に軍事力が増える。二年生の我々で最後となつたあの勇壮な兎狩り、また四年生に入って旭川師団見学と一週間師団内での寝起きも、思いでが尽きない。五年間に互る在学中こそ吾が純粋なる最高の青春

であつたらう。校舎正面職員玄関を入ると校長室があり、入口上には校訓である「誠愛勇」の揮毫の額が目につくが、これこそ昔も今も不滅の至宝である。聖書の一節を引用させて戴くが、「いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛の三つである。この内最も大いなるものは愛である。愛は寛容にして慈悲あり愛は妬まず驕らず非礼を行わず己の利を求めず、忍び信じ給てに耐え真理を求むる」とある今若者は、とかく辛抱が無い、自己本位に走る処に非行が生れると云つても過言でないだろう。昭和六二年、卒業五十周年記念を雄大なる阿婆の麓で盛大に開催する計画です。それにつけても半数近い友を亡したことは誠に悲しい、同期会の都度、恩師三原先生の御元氣なお姿に接し得る事は幸いであり、吾々もまだまだ弱音等云つて居られない。人を愛し「魚似魚行水自清」、健康第一に意義ある日々を送り度いものである。



頑張れ! 湖陵球児

湖陵十六期 大道 光 肇

今年の湖陵野球部の活躍は、久方振りて私達同窓生に大きな興奮と深い感動を与えてくれた。残念乍ら、北大会の決勝で健空しく敗れたけれども、それまで一戦一戦勝ち抜くたびに球場一杯に流されるあの懐しい校歌を耳にする時、私自身の青春時代の数々の思い出が胸を過り、心熱くなる思いを抑えることが出来なかつた。

私達十六期生は、昭和二十一年生れということが生徒が極めて少なかつたこともあって、何と無試験で憧れの湖陵高校へ入学した。だから成績が思わしくなかつたり、何か不詳事を起こすと、先生から「お前達は無試験入学だからなあ」とよく言われたものである。でもそれが一つの発奮剤となつて、勉強に運動に人一倍頑張つたと思う。当時は、まだ下駄履きで、油や玉子の白味を塗つて光らせた帽子を被つて通うバンカラ生徒も少なくなかつた。私は寺の息子ということで、三年間頭を丸坊

主に割つて登校した。よく級友に つるつるの頭を撫でられたものである。私自身、将来は僧侶になることには何の抵抗も持たなかつたけれども、ただこのままそんなりとなることに多少のためらいがあつた。せめて高校時代だけは、好きな野球を精一杯やってみたくて、思い、親に内緒で野球部に入り、甲子園を夢みながら毎日日が暮れるまで野球に励んだものだ。しかしそのうちに親に知られてしまい父から「勉強もしないで野球にうつつをぬかすとは何事だ。お前は寺の跡取りだぞ。いい加減な気持ちでは立派な坊さんになれぬ。」と切々と説教され、遂に野球を断念せざるを得なくなつた。親に逆らう勇氣がなかつたのである。涙で蒲団を濡らしたその夜のことは今でも忘れられない。自分の果せなかつた夢を後輩に託し、いつの日にか甲子園でわが校歌を聞くことが出来ることを念願し、いつまでも応援してゆくつもりである。

わが青春は...

からなあ」とよく言われたものである。でもそれが一つの発奮剤となつて、勉強に運動に人一倍頑張つたと思う。当時は、まだ下駄履きで、油や玉子の白味を塗つて光らせた帽子を被つて通うバンカラ生徒も少なくなかつた。私は寺の息子ということで、三年間頭を丸坊

釧路市議会議員

日向 郁 雄

釧路市春採 7-24-12
電話 46-5524
(湖陵3期)

釧路市議会議員

藤 卷 直 樹

釧路市鳥取大通 3-13-3
電話 51-3322
(湖陵4期)

当番期紹介

我が青春の日々

鋼中三十四期、湖陵三期

松原久幸

す、男女別々の同期会を持つことになる。同一学年で、二つの同期会を持ち、然も、湖陵、江南の枠を超えて結成しているのは、我々が最初にして最後である。

昭和二十年太平洋戦争に漸く暗雲が立ち始める頃入学したのが鋼中三十四期生である。入学と同時に、学徒動員会で、布団担いで草深い山奥へ駆り出され、終戦迄の半年開始と授業らしきものはなかった。終戦後、進駐軍に依る学制改革は、教育事情を一変した。

度重なる校名改称は実に六年間で五回、次に六・三制実施、最後が男女共学と続く。その中でも、特筆すべきは、男女共学である。

男子十七才、いくら晩熟でも、女学生が最も気になる頃に、いきなり机を並べて生活を共にするのは、心中穏かではなかった。

めまぐるしく変る教育制度の狭間の中で、次第に強い仲間意識が芽生え始めた。こうして誕生したのが、鋼中ラスマエ会であり、鋼女二十会である。男女七才にして一の故事は、一年間だけの学校生活では、その殻を破ることが出来

半端者の期

湖陵十三期

山田和弘

安保改定の激動に揺り動きつつも、所得倍増論が高らかに打ち上げられ、神武景気に酔い、わが国は具後の混乱期を脱し、着実に立ち直りをみせていた。

わがまち鋼路市においても、本州製紙の進出、副港魚揚場の完成、鋼路空港の開港、挽歌ブームなどまちとして脚光を浴び、躍進途上にあつた。

そんな昭和三〇年代の半ば、湖

陵十三期（三十六年度卒）一同は伝統ある湖陵高等学校同窓会に仲間入りさせていただきました。地元はもとより、全国各地に就職し、あるいは大学に進学した仲間たちは、今それぞれの社会分野で中堅を担う人生八〇年代のちょうど中間に位置する年代を迎えています。

そして、子供たちの成長に目を細め、ふと青春時代を懐かしんで机を並べた悪童達が集うことに、旧友の一人ひとりの名前と顔を思い起こしては、夜更けまで語り、騒いで、たちまち空びんに囲まれるパターンを繰り返します。

幹事期を請けたまわったものの先輩三期の皆さんのこれぞ湖陵魂という情熱に刺激され、後輩二十三期諸君の若さと行動力に助けられ、辛じて中間幹事としての役割を果している状態ではありますが、同期会をこの機に発足させたことをもって、今後の一歩としたいと考えている次第です。

十年後の礎に

湖陵二十三期

榎金達朗

昭和46年卒業、概ね33歳前後というのが我々湖陵23期であります

この年代の常に漏れず、我々もまだ同期会を結成しておらず、卒業以来14年、同窓会をさほど身近に感じることもなく、平穏な日々を送ってきたところであります。

そんな我々を突如おそった当番幹事の大風。伝え聞くだに恐しい会券売りの物凄さ。到底非力を私如きの任に非ずと、ご遠慮申し上げたいと思つてはみたものの、思えばこれも総会を、仲間と夜の街に繰り出すための景気づけに最適な、誠に有意義な催しと心得、数年前より欠かさず出席し、飲み放題の生ビールをもってその趣旨を全うし続けてきたことの当然の報いと観念し、同好の士に呼びかけ3期・13期の先輩のお手伝をさせていただきますことになりました。

以来、諸々の準備作業に際し、これら両期の先輩にほとんどおんぶした格好の至らぬ私共ではございましたが、当番期以外の各期の代表者の皆さんの快いご協力もあり、受け持ち範囲の会券の売れ行きもまずまずです。どうか責任の一端は果たせそうに見通しと、幹事役一同、ほっと一息ついているところでありませう。

あとは当日の盛会を祈るのみ。10年後に再び巡り来る当番期に向け、同期会の結成が今後の課題といたしたところでありますように。

鋼路市議会議員

山口 功

鋼路市昭和4-2-9
電話 51-6451
(湖陵10期)

鋼路市議会議員

本間 秀一

鋼路市大町4-1-14
電話 43-0127
(湖陵6期)

安井校長

かゝりつね

偉丈夫な体軀をみると、いかにもスポーツマンを感じさせる安井友博先生は、湖陵高校歴代二十代目の校長である。樽中（現小樽湖陵高校）から北大（理学部）に進み、教員として社会にでられて、昭和二十年代後半が、ハンマー投げ選手としての活躍の舞台である。競技歴一覧をみると（いづれもハンマー投げ）25年全日本学生（6位）国体（5位）26年国体（2位）27年全道（1位）28年全日本（4



位）29年全道（1位）全日本（4位）30年全道（1位）全日本（5位）国体（5位）道選手団旗手）31年全道（砲丸1位）の記録が示す通りのスポーツマンである。冬場、スキーを楽しまれるが、並みの素人以上の力を持っておられると思っていれば、25年全日本学生（二部新復合2位）26年全日本（一部新復合8位）全道学生（大回転1位）の記録の持主で、友人の域にある。最近では、暇を見つけてはゴルフ場に通っておられるようだが）オフィシャルハンディ12）陸上やスキーは現役引退しても、ボーリング等も含めスポーツ抜きでは考えられない日常生活のご様子である。

先生は音楽にも造詣が深く、実技にアコーディオンがある。興が至ればにわかにな楽器を取りよせ、流れるようにとはいかないが、懐しのメロディなどをこなす観楓旅行や忘年会での余興の一つに位置づけられていると聞いている。さらに、

「芸」の充実を期待したい。歌も好きで、素人の耳にはやや蜜カラ風が基調となつて、時と場所と聴く人を得れば結構いける。多様な多彩の趣味をおもちの先生は、他に囲碁（三段）麻雀もある。囲碁は持前の鋭さと性格が現われるとの評だが、麻雀の強さについては評価の分れるところである。麻雀と言えはお酒だが、これについては、豪放な笑いにアルコールが霧

同期会だより

湖陵八期の巻

近年同窓会や同期会又はクラス会等の機会が多く昔を偲ぶ年代になつたのかとふと思う。我々湖陵八期会は釧路は勿論の事東京に於いても渡辺君が中心となつて三年程前から行われているが此の度湖陵札幌八期会が四月二十日札幌センターパークホテルで盛大に開催した。井上先生。鎌田先生。津崎先生。近藤（旧姓）先生を招いて

札幌並びにその近郊の室蘭、旭川等から総勢三十一名が参集した。卒業以来初めての再会とかで感激の余り抱き合つて喜ぶシーンも見られ、午後二時から午後九時まで時間を忘れて美談、美酒に華が咲いた。その後二次会、三次会と午

散するらしく、忘我の境地にあると目撃したものはないとの風評であるが、これはご自身がよくご存知のところか。ともあれ、物事をてきぱき処理し、憂いを後に残さない仕事振りには、この多趣味が程よく作用しているからとお見受けするのだが今後とも湖陵高校発展のために、ご尽力を給わりたい。

前2時過ぎまで続いた。尚、役員選出が行われ会長に中村堅太郎氏副会長に中畑敏夫氏、青木由紀江氏、事務局長に山本弘美氏が選出された。（山部恒弘）



道 / 東 / の / 印 / 刷 / セ / ン / タ / ー



藤田印刷株式会社

〒085 釧路市若草町3番地1 ☎22-4165・23-7411

社会人一年生



釧路市立東中学校

滝谷 美樹治(湖33期)

「社会人としての私」

春採湖の高台にそびえる東中学校に赴任してから四ヶ月。それは駆け足で通り過ぎた四ヶ月でした。十六年間の学生生活の間、知らず知らずのうちに「甘え」を身につけていた私にとって、初めて触れた社会は予想以上に厳しいものでした。しかし、私はその社会の厳しさというものに、最初から気づいていたわけではありませんでした。

赴任した当初、私は多少のともなごいを感じながらも、一応自分なりに仕事をこなしているつもりでした。しかし、それこそ私の「甘え」だったのです。社会に一步踏み出せばいつも責任が伴う……頭の中ではわかってはいるつもりでも実際には学生気分が抜けずに、行動が伴っていない私でした。そんなある日、私は教師の責任について考えているうちに愕然と



釧路教育局

斉藤 順二(湖37期)

「大きな人間に成長したい」

高校時代野球のことしか考えていなかった私が、今、社会人として働いています。

まだ社会人として働いている自分が信じられませんが、最近ほんやりと実感がわいてきました。まったく訳のわからない世界に入り最初の頃は自分が今、何をしているのかもわからず、ただ言われるまま、仕事をしていましたが、四ヶ月たった今になってやっと自分の仕事の意味がわかってきたように思います。

その日以来、ほんの少しずつですが、社会人としての自覚らしきものが芽生えてきたような気がします。これからも、自らを省みる気持ち忘れずに、マイペースで「教育」という大きな壁に取組んでいきたいと思えます。

高校時代野球のことしか考えていなかった私が、今、社会人として感じられます。

私の場合、就職が決まるのがとても遅く、四月十日になってやっと連絡がきました。昨年の十二月に道職員の二次試験の合格通知がきてから約四ヶ月の間ずっと待たされました。ですからほとんどあきらめ、何かアルバイトをしながら今年もまた公務員の試験を受けようとまで考えていました。そんな時に連絡が入りました。うれしいというより何かほっとしたような気がしました。両親や兄、担任の先生もとてもよろこんでくれて、この時ほど働けるのがうれしく思えた日はありません。

これからの人生、何も決まっていなかった日のことを決して忘れて、大きな人間になって、心配してくれたい。直接に自分の仕事の意味が実感す。

あとがき

▼高校野球の北大会は、湖陵野球部の大健斗に湧いた。三たび、母校々歌をテレビの音で聴いた。折角だから、ブラウン管に歌詞が写しだされたら最高なのと思ったものだ。甲子園への道は断られたが、さわやかな夏の日であった。

▼母校改築の問題は、ようやく、その端緒に付いた形である。母校が老朽のために、改築の必要があるかどうかを調査する対象校になったということだ。一日も早く改築が本決まりになって、新たな歴史を刻むようになることを望むところである。

▼会長の随筆で、現湖陵生が応援歌を演奏したり、歌ったりできないことを慨嘆しているが、実際は応援歌の楽譜がないことによる。母校に楽譜が存在しないのが不思議なのだが……。母校でも困っているところである。同窓の諸兄で譜面を所持している方がおられたらどうか母校に連絡をしていただきたい。

編集にたずさわった人。

- 上岡 信明 徳田 広
- 遠藤 隆吉 和田 信幸
- 豊島 弘道